

クラブ大会試合結果一覧

◆陸上競技部  
5月 高校総体西三河予選 男子 総合2位・女子 総合優勝  
高校総体愛知県大会 女子 総合3位・女子 フィールド優勝  
6月 高校総体東海大会(岐阜) 円盤投 100m 4位  
3年 阿部慧志(上郷) 400m  
3年 生田幸長(矢作) 400m  
3年 万前瑞葵(知立) 400m  
3年 鳥居大華(六ツ美) 400m  
3年 村松優(平坂) 走高跳 2位・三段跳 3位  
3年 石川凜(平坂) 三段跳 3位・走幅跳 4位  
3年 山下美智乃(長良) 3000m  
3年 小寺こころ(六ツ美) 走高跳  
3年 小松このみ(大府) 100m 4位・200m 4位  
2年 山田真央(御幸山) 砲丸投 3位  
2年 鈴木きょうこ(知立) やり投  
男子4x100mR 4位  
3年 万前瑞葵(知立) 3年 生田幸長(矢作)  
2年 戸田源大(東浦北部) 3年 鳥居大華(六ツ美)  
女子4x100mR  
2年 酒井菜胡(雁が音) 3年 小松このみ(大府)  
2年 瀧島月香(豊明栄) 2年 青山和奏(古知野)  
女子4x400mR  
2年 酒井菜胡(雁が音) 3年 宮原和香奈(雁が音)  
2年 川口莉絆(東山) 3年 瀧島月香(豊明栄)  
6月 第38回U20日本陸上競技選手権大会(大阪)  
3年 小松このみ(大府) 100m 1位・200m 2位  
8月 全国高校総体(徳島)  
3年 生田幸長(矢作) 100m  
3年 村松優(平坂) 走高跳  
3年 石川凜(平坂) 走幅跳・三段跳  
3年 小松このみ(大府) 100m 4位・200m 6位  
2年 山田真央(御幸山) 砲丸投  
男子4x100mR 4位  
3年 万前瑞葵(知立) 3年 生田幸長(矢作)  
2年 戸田源大(東浦北部) 3年 鳥居大華(六ツ美)  
8月 東海選手権出場者(三重)  
3年 村松優(平坂) 走高跳 7位  
3年 石川凜(平坂) 三段跳  
3年 山下美智乃(長良) 1500m 2位  
3年 小松このみ(大府) 100m・200m  
3年 宮原和香奈(雁が音) 400mH  
2年 山田真央(御幸山) 砲丸投 7位  
2年 坂田朋花(平坂) 5000m 3位  
2年 太田美晴(六ツ美北) 5000m 5位  
2年 鈴木きょうこ(知立) やり投  
1年 木下みなみ(平坂) 砲丸投  
1年 火山華(六ツ美) 5000m 4位  
男子4x100mR  
3年 万前瑞葵(知立) 3年 生田幸長(矢作)  
2年 戸田源大(東浦北部) 3年 鳥居大華(六ツ美)  
男子4x400mR 6位  
3年 福井篤輝(古知野) 3年 鳥居大華(六ツ美)  
1年 吉野朱祐(大高) 3年 万前瑞葵(知立)  
女子4x100mR  
2年 岡部百海(大府) 2年 青山和奏(古知野)  
3年 瀧島月香(豊明栄) 2年 川口莉絆(東山)  
女子4x400mR 8位  
2年 酒井菜胡(雁が音) 2年 川口莉絆(東山)  
2年 岡部百海(大府) 3年 宮原和香奈(雁が音)  
9月 愛知県高校新人大会西三河予選 男子 総合2位・女子 総合優勝  
愛知県高校新人大会 男子 総合3位  
2年 戸田源大(東浦北部) 100m 5位  
2年 富山タイム(一色) 走高跳 5位・三段跳 5位  
1年 上村玲大(朝日) 走幅跳 5位  
1年 磯貝洋志(福地) 走幅跳 6位  
1年 杉浦颯志(竜海) 110mH 6位  
2年 山田真央(御幸山) 砲丸投 1位  
2年 酒井菜胡(雁が音) 三段跳 3位  
2年 市川彩乃(知立) 三段跳 5位  
2年 坂田朋花(平坂) 3000m 2位  
2年 太田美晴(六ツ美北) 3000m 6位  
2年 鈴木きょうこ(知立) やり投 3位・円盤投 6位  
1年 木下みなみ(平坂) 砲丸投 3位  
1年 仙石華子(篠目) 三段跳 2位  
1年 火山華(六ツ美) 1500m 6位・3000m 1位  
女子4x100mR 6位  
2年 岡部百海(大府) 2年 青山和奏(古知野)  
2年 酒井菜胡(雁が音) 2年 川口莉絆(東山)  
10月ATHLETICS CHALLENGE CUP 日本グランプリシリーズ新潟大会  
3年 鳥居大華(六ツ美) 400m

◆女子サッカー部  
第76回愛知県高等学校総合体育大会女子サッカー競技 ベスト8  
令和4年度愛知県高等学校女子サッカー大会 第3位  
第31回全日本高等学校女子サッカー選手権愛知県大会 ベスト8  
愛知県女子サッカー選手権大会(兼 皇后杯県予選) ベスト8  
愛知県U-18リーグ1部 第3位  
国体候補選出 県U-18アカデミー選出  
2年 奥村彩世(知立) 1年 梶川真鈴(碧南中央)  
1年 石川真捺(前林) 1年 坂口達(英中)  
◆ハンドボール部  
第76回愛知県高等学校総合体育大会ハンドボール競技西三河大会 4位  
令和4年度愛知県高等学校ハンドボール選手権大会西三河大会 5位  
令和4年度西三河地区高等学校ハンドボール選手権大会 準優勝  
碧海高等学校ハンドボール大会 優勝  
◆バレーボール部  
第76回愛知県高等学校総合体育大会バレーボール競技西三河支部予選会 優勝  
第76回愛知県高等学校総合体育大会バレーボール競技愛知県予選会 ベスト8  
令和4年度愛知県高等学校バレーボール選手権大会西三河支部予選会 準優勝  
令和4年度愛知県高等学校バレーボール選手権大会 3位  
第26回愛知県私立高等学校男女バレーボール選手権大会 5位 東海大会出場  
第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会西三河支部予選会 第3位  
◆男子硬式テニス部  
テニス西三河選手権大会(個人の部)  
シングルス決勝トーナメント準優勝 1年 菊池優斗(安城南)  
愛知県高等学校新人体育大会テニス競技  
西三河予選 団体戦3位  
個人戦シングルス Bブロック優勝 1年 菊池優斗(安城南)  
Bブロック準優勝 2年 三ツ口毘沙門(朝日)  
個人戦ダブルス Dブロック優勝 2年 三ツ口毘沙門(朝日) 金水漣(篠目)  
県大会 団体戦初出場  
個人戦シングルス出場 1年 菊池優斗(安城南)  
個人戦ダブルス出場 2年 三ツ口毘沙門(朝日) 金水漣(篠目)  
◆硬式テニス部女子  
テニス西三河選手権大会(個人の部)  
シングルス Dブロック 準優勝 1年 秋山花菜  
愛知県高等学校新人体育大会テニス競技西三河予選  
個人戦ダブルス Aブロック準優勝 2年 杉浦未来 1年 浅田美晴ペア  
◆アーチェリー部  
秋季アーチェリー大会  
1年 中原綾乃(鶴城) 1年生の部6位入賞  
2年 山中翼月(朝日) 2年 大島千佳(安城南) 2年 加藤七海(安城北)  
女子団体3位入賞  
◆バドミントン部  
男子  
令和4年度愛知県高等学校新人体育大会バドミントン競技 三河支部予選  
学校対抗戦 ベスト8  
ダブルス ベスト16 2年 森田涼輔(安祥) 1年 久湊侑斗(桜田)  
シングルス 第3位 1年 久湊侑斗(桜田)  
女子  
令和4年度愛知県高等学校新人体育大会バドミントン競技 三河支部予選  
学校対抗戦 第3位  
ダブルス ベスト8 2年 山脇杏梨(金屋) 1年 角倉莉菜(西尾東部)  
シングルス 準優勝 2年 山脇杏梨(金屋)  
ダブルス ベスト16 1年 角倉莉菜(西尾東部)  
令和4年度愛知県高等学校新人体育大会バドミントン競技 愛知県大会  
ダブルス ベスト16 2年 山脇杏梨(金屋) 1年 角倉莉菜(西尾東部)  
シングルス ベスト8 2年 山脇杏梨(金屋)  
◆ソフトボール部  
第76回愛知県高等学校総合体育大会ソフトボール競技西三河大会 3位  
第76回愛知県高等学校総合体育大会ソフトボール競技(県大会) ベスト16  
令和4年度愛知県高等学校ソフトボール選手権大会 ベスト16  
第55回全三河高等学校女子ソフトボール選手権大会 準優勝  
第33回中部日本私立高等学校女子ソフトボール選抜大会 1部 ベスト8  
令和4年度愛知県高等学校新人体育大会ソフトボール競技 準優勝(県大会出場決定)  
◆ダンス部  
全国高等学校ダンスドリル選手権大会2022 (HIPHOP女子部門Large編成) 東海大会第1位  
第12回全日本高等学校チームダンス選手権大会 中部予選第6位  
第15回日本高校ダンス部選手権(夏の公式全国大会) 東海・北陸大会出場  
第14回NFCC・全国ハイスクールダンスコンペティション 第3位・チャコット賞受賞  
◆吹奏楽部  
2022年度愛知県吹奏楽コンクール 県大会 金賞(録音)(豊田市民文化会館)  
2022年度愛知県代表選考会(センチュリーホール) 東海大会出場権獲得  
第77回東海吹奏楽コンクール 金賞(アクトシティ浜松大ホール)  
2022年度中部日本吹奏楽コンクール 県大会 大編成の部 金賞・代表(本大会進出)(刈谷市総合文化センター)  
第65回中部日本吹奏楽コンクール 本大会 大編成の部 金賞・理事長賞(3位)(ハーモニーホールふくい)  
2022年度愛知県マーチング大会 招待演奏(日本ガイシホール)  
第36回東海マーチングコンテスト 金賞・朝日新聞社賞(1位) 全国大会進出(ビッグハット 長野県)  
第28回日本管楽合奏コンテスト全国大会 最優秀賞(森のホール21 千葉県)  
◆弦楽部  
第11回日本学校合奏コンクール2022全国大会グランドコンテスト出場(けんしん郡山文化センター大ホール)  
第11回日本学校合奏コンクール2022全国大会ソロ&アンサンブルコンテスト出場(千葉県文化会館大ホール)  
ソロ部門  
コントラバス 3年 久保遙菜(矢作中) ヴィオラ 3年 杉浦姫菜(城北中)  
アンサンブル部門  
弦楽アンサンブル  
岡田虹 浅井鏡平 犬塚日那 渡部七海 土本彪雅 太田愛琉 上田真那佳  
田中彩絵 森千春 黒柳奈々 杉浦姫菜 久保遙菜 大野愛莉 井上乃愛  
福古倫奈 羽田和奏 久保田紅葉 近藤大輔 小笠原ゆかり 富田優杏  
◆合唱部  
第62回愛知県合唱コンクール 金賞・代表(中部大会進出)  
第75回中部合唱コンクール 銀賞  
◆演劇部  
第75回中部日本高等学校演劇大会愛知県大会 奨励賞  
第75回中部日本高等学校演劇大会西三河第2地区大会 優秀賞  
◆学び探究部  
マイプロジェクトアワード2021中部サミット 地域特別賞  
◆美術部・書道部・写真部  
9月 第69回私学美術展 出品 岡崎市美術館  
◆美術部・写真部  
10月 第79回安美展 入選多数 安城市民ギャラリー

Anjo Gakuen Highschool Newsletter 彩雲  
Ayagumomo  
2022 vol.128  
発行日/11月10日



特集  
学園祭



principal  
speech

巻頭言

2学期始業式の式辞で、「人と話すときに必要なことは、相手が心を開いてくれる、心からの気持ちをこめたスマイル、つまり和やかな表情がとても大切である」という話をしました。

仏教用語に「和顔愛語(わけんあいご)」という言葉があります。この用語は、「和やかな笑顔」と「思いやりのある言葉づかい」で人と接することが、人間関係をスムーズするための知恵ですという意味のようです。

コロナが流行し始めてから三年近く、私たちは人と会う時、無意識のうちにマスク越しに無表情になっていることはなかったでしょうか。人と人とのコミュニケーションで、自然な笑顔はきっと重要な働きをしています。

社会生活で他人と気持ちよく接するには、ありのままの笑顔で接することが基礎的なマナーであり、「常に笑顔であろうと、少しだけ意識することも大切」ではないでしょうか。

人間は基本的にネガティブ思考。昔から最悪を考えるからこそ危機を回避して生きぬいてこれたのだと思います。とはいえ、だからこそ意識的に明るくポジティブ思考をすることが大切だと思うのです。

『笑顔でいるために心掛けたいこと』

- ・新しいことに挑戦しようという気持ちをもつこと。
- ・人に劣等感を持つのではなく、「すごい」と素直に感心すること。
- ・自己を肯定する。自分で自分を褒める。
- ・なるべく下を向かず、上を向いて歩こう。
- ・親しい友人との関係は、適度な距離をおいて付き合う。

そのうえで、「ありがとう」を素直に伝える。



安城学園高等学校  
校長 関 神一

# Contents

- 2 巻頭言
- 3-5 学園祭
- 6 体育祭・生徒会活動報告
- 7 国際交流部  
フレッシュマンキャンプ
- 8 商業科インターンシップ
- 9 教科セミナー
- 10 フューチャーセッション
- 11-16 部活動レポート

# 学園祭 2022

9/22(木)・23(金)



## 一歩 ～110年の思いを未来へ～

学園祭実行委員長 神谷 美葵(矢作)

創立110周年記念安城学園高等学校の学園祭にお越し頂きありがとうございました。

今年の学園祭のテーマは、「一歩～110年の思いを未来へ～」でした。このテーマには、たくさんの意味が込められていますが、学園祭をゴールとするのではなく、その先へ歩みをすすめるためのきっかけとなる一歩目をこの学園祭で踏み出してほしいという思いも込められています。皆さん、一歩踏み出すことはできたでしょうか。

学園祭を準備してきた約4ヶ月間、きっと楽しい思い出ばかりではなかったと思います。それぞれの歩を進めるために、工夫をして一生懸命仲間と協力し、たくさんの壁を乗り越えてきたと思います。ひとりひとりの頑張りが強かったからこそ今年の学園祭当日には、クラス企画や今年復活した模擬店を中心に大盛り上がりでした。まだまだコロナ禍による制限はありましたが、それでも、たくさんの思い出をつくることのできた学園祭になりました。ご協力いただいた全校生徒・先生方・保護者・地域住民の皆さま、ありがとうございました。

## 学園祭をきっかけに、大きな「一歩」を踏み出しましょう

前期生徒会長 伊藤 萌夏(蒲郡)

9月22日、23日に学園祭が行われました。

コロナ禍の影響で、今年も制限付きではありましたが、保護者の方への公開やクラブの模擬店など従来に近い形で行うことが出来ました。

今年のテーマは「一歩～110年の思いを未来へ～」。高校生が社会問題に対して、友だちに対して、自分自身の思いに対して一歩を踏み出せるように、そして安城学園高校が今年110周年を迎えるということからこのテーマにしました。

このテーマのもと、各クラスがデコレーション部門、調査・研究部門、ステージ部門、アミューズメント部門に分かれ、夏休み前から準備を行ってきました。テーマにかかげた「一歩」のとおり、それぞれのクラスが社会問題を絡めて企画したり、クラスメイトに対してさらに一歩踏み出した行動をしたりするところが多く見られる学園祭となりました。また、学園祭実行委員会・生徒会としても、学園祭を盛り上げる企画や、全校生徒で社会問題について考える企画などを立案し、運営しました。安城学園高校創立110周年にふさわしい学園祭になったと思います。

ここで終わりにするのではなく、さらに大きな一歩を踏み出していきたいと思っています。



# 学園祭実行委員会 テーマ企画 未来のために踏み出す一歩 ～平和と団結を～

- テーマ企画  
鈴木 佑依 (西 浦)  
中元 颯南 (安 祥)  
高柳 里名 (安城北)  
加藤 由紀恵 (安城西)  
本村 美有 (前 林)  
渡辺 心美 (新 川)  
小手 愛美 (安城北)  
大熊 来実 (知 立)  
本村 美有 (前 林)  
中野 那菜 (碧南東)  
立松 紗耶 (安城西)  
平岩 真琴 (矢 作)
- 友情出演  
渡邊 陽斗 (東 山)  
犬塚 太智 (一 色)  
嶋田 空大 (形 原)  
( )内は出身中学校

今年のテーマ企画は「未来のために踏み出す一歩」を考えてもらうために、模擬投票と朗読劇に取り組みました。

①模擬投票は「安心民主党」という架空の与野党の総裁を選ぶという企画です。総裁選の争点は「防衛費と憲法9条」。5年で防衛費を倍増し、憲法9条を改正しようとする候補者を選ぶのか、それに真っ向から反対する候補者を選ぶのか、全校生徒が安民党議員になり、投票してもらいました。判断材料は3つ準備しました。

一つ目は地歴公民科の先生による「学園祭コラボ授業」です。両者の主張の違いが分かる授業をしてもらいました。二つ目は「与党安民党新聞」の全校配布です。立候補者の主張や3か月かけて調べた内容を掲載しました。三つ目はCM入り、総裁選候補者による「公開討論会番組」の全校放送です。防衛力を増強して、日本が攻められないようにすべきか、あくまでも話し合いによる外交努力をすべきか、二人の立候補者に熱く、議論を交わしてもらいました。



安民党総裁選ポスター



2022年度 歳出の内訳 防衛費5.4兆円 約5%



安民党総裁選 投票会場受付



②もう一つの企画は、昨年の朗読劇「勇太の桃」の続編、「桃とひまわり～勇太の桃、その後～」の全校放送です。原作は豊田直巳さんの『福島 人なき「復興」の10年』、脚本は柳瀬真代先生にお願いしました。

ウクライナも福島も、戦争や原発事故によって、当たり前の日常が奪われるという共通点があります。ウクライナから安城に避難しているルスランさんとリティアさん夫婦に学園祭企画のひとつである「足跡メッセージ」をお願いしました。そこには、「平和と団結をウクライナに」と書かれていました。私たちがより良い未来をつくるために、踏み出さなければならない一歩を考えるきっかけになりました。

## 「桃とひまわり～勇太の桃、その後～」あらすじ

福島第一原発事故により、福島県飯館(いいたて)村は「計画的避難区域」に指定され、全村避難となった。村の中心は原発から40km。人口6000人の自然豊かなのどかな村は一変。村に暮らす夫婦は両親を残し、東京へ避難。避難先で勇太が誕生。祖父は記念に、庭に桃の木を植え、「勇太」と名づけた。事故から6年、避難指示は解除。里帰りの勇太は、祖母から土産に育てた桃をもらった。しかし、帰り道、両親はその桃を道の駅に捨て、勇太が口にすることはなかった。

あれから3年。勇太は小学4年生になり、友人の一人にロシア出身ユウリがいた。ロシアのウクライナ侵攻で、騒がしくなる教室。勇太の心の変化は。母や祖母が、国や東電に挑んだ最高裁の判決は。村の再生に取り組む隣人の決意とは。真の復興とは。様々な視点から、日常を描いた柳瀬真代(本校国語科教諭)渾身の作。

## 未来のために踏み出す第一歩

テーマ企画チーフ 3年3組 鈴木 佑依 (西浦)

「最初は防衛費倍増反対に賛成でしたが、公開討論会番組を見て、どちらの立候補者にもメリット、デメリットがあり、簡単に選べなくなりました。その後、地歴公民科の授業で、ロシアのウクライナ侵攻や日本の周辺国との関わりについて学び、より真剣に考え、投票することができました。」という感想がありました。投票することで、より身近な課題に感じてくれたことをうれしく思いました。

投票当日は安城市選挙管理委員会から、実際使われている投票箱や記載台などをお借りし、本物と同じ材質の投票用紙とクリップペンシルも用意しました。投票率は91.3%、投票結果は「防衛費倍増、憲法9条改正に反対する」候補者が67.5%の支持を集め、安民党総裁に選ばれました。未来を考えるきっかけをつくることができたことが最大の喜びです。



学園祭足跡メッセージ  
「平和と団結をウクライナに」  
(ルスランさん・リティアさん夫婦)  
2022年8月



請戸小学校児童が震災直後  
避難した大平山で説明を聞く  
(左・山口祐次さん)  
2021年12月東北訪問

昨年末、東北訪問で、実際に被災地を訪れる機会を得ました。福島で一日ガイドをしてくださった山口祐次さん(富岡町)、陶芸を教えてくださいました陶正徳さん(浪江町)は、故郷に戻りたくても戻ることができない状況が続いています。お二人は生活の拠点、生業を郡山市に移して、暮らしています。

山口さんが住んでいた地区の帰還困難区域指定は解除されましたが、この間、泣く泣く自宅を取り壊し、現在も更地となった土地を保有しています。案内してもらいましたが、胸が締め付けられる思いでした。東北を訪れ、復興は道半ばで、今も苦しんでいる人がたくさんいることを肌で感じました。

また、「福島ひまわり里親プロジェクト」のつながりで、ウクライナの方と出会う機会も得ました。ウクライナから安城に避難されている葛西さんご夫婦、ルスランさん、リティアさんご夫婦から全校で話を聞いた後も、デンパークと一緒にひまわりを育てることができました。

ウクライナ戦争の終わりは見えず、故郷に帰れる目は立っていません。出会った東北の人たちやウクライナの人たちには、当たり前の日々が奪われるという共通点があります。学園祭を通して、今、過ごしている当たり前の日常が、どれだけありがたいことなのか、尊いことなのかを、改めて見直すことができました。同時に東北の復興やウクライナ戦争の厳しさについても、知る機会となりました。こんな困難な状況で、苦しくても、前向きに生きる人々と触れ合えたことは、私の財産となりました。

## 朗読劇「桃とひまわり～勇太の桃、その後～」を通して

テーマ企画サブチーフ 商業科2年3組 中元 颯南 (安祥)

朗読劇「桃とひまわり」は、原発や戦争で日常を奪われている人たちがいること、自宅や故郷に帰りたいけど帰れない人たちがいること、当たり前だと思っていた日常のありがたさや尊さ、世の中の流れに関心を持つことの大切さ、偏見や差別のことなど、様々な視点で、描かれています。台本を読み、朗読劇で使う画像を探そううちに、どちらも「国とその土地に暮らす人たちの間に考え方の隔りがある」という共通点に気づきました。

朗読では演出の毛受由美先生のアドバイスを、場面の雰囲気や伝わるように、立ち位置を考えたり、日常会話に近くなるようにお互いの目を見るようにしたり、身振り手振りを加えたり、様々な工夫を取り入れることができました。先生たちにもキャストに加わってもらい、恥ずかしがらず、役になりきって演じることができました。

「私はベルギーの学校に通っていたとき、周りにはウクライナから避難してきた人もロシア人もいました。でも、彼らは友達同士で、出身は関係ないと言っていました。最後の勇太のユウリへの言葉『君のパパが何人だろうが関係ない。君は僕の大切な友人だ。僕は君の側にいるよ。だから君も僕を支えてくれ。』はユウリにとって、心が救われるものだと思います。すごくいい話だと思います。」(2年3組 大田美結・ベルギーInternational School of Brusselより転入)

という感想がありました。心に残る作品に関わって、うれしかったです。私自身も2年連続でテーマ企画に携わり、福島やウクライナに対して、何か行動を起こしたいという思いが、より一層強くなりました。



### 【風をよむ】

戦争により 国々の境は  
幾度も書き換えられた  
今もその危機にある国がある  
国や平和や命を守るには防衛だけでは  
医療 福祉 教育 ○○  
優先順位をつけ 予算を決めるのは  
政治の役割のひとつだ  
誰を選ぶか 簡単ではない 迷っても良い  
関心をもち 投票で意思を示すことだ

国が決める方向は  
常に正しいとは限らない  
未来の予測は難しい  
歴史や過去に学ぶのは  
より良い未来を生きるためだ

歴史は繰り返すと言われるが  
戦争の歴史は  
繰り返してはならない  
世の中の動きや時代に  
敏感になることが求められる

平和と団結を ウクライナに  
日本に そして世界に…  
(テーマ企画担当教諭 地頭 雅春)

デンパークひまわり鑑賞会

# 体育祭

勝利クラス



## みんなで勝ち取った総合優勝!

2年7組 山田 駿(六ツ美北)

3年振りの体育祭で総合優勝することができてよかったです。個人の結果で悔しかったり、上手くいかなかったりした部分もあると思うけれど、一人ひとりがクラスのために頑張った結果の優勝です。これからも球技大会など、クラスで取り組む行事があります。2年7組の一人ひとりが今よりもっと団結し、クラスのために行動し、みんながよいクラスだったなって思って終われるようにしたいです。

## 体育祭総括

### クラスTシャツで彩られた体育祭

保健体育科教諭 栢山 美鈴

例年5月後半に1日かけて行われる体育祭。新型コロナウイルスの影響で2年間行うことが出来ていませんでした。

今年は、1年生から3年生の誰もが初めての体育祭。体育祭当日は、天候にも恵まれ30度近く上がると予想されていた気温も時々現れる雲に助けられ進行していきました。

今年の醍醐味は「クラスTシャツでの競技参加」。学園祭で作られたクラスTシャツを着用し、競技自体が華やかに感じることが出来たと思います。そして半日という短縮開催でしたが、全学年で行うことが出来たのは良かったと思います。

これからの高校生活も、全力で楽しむために、体育祭と同じようにルールやマナーを守りながら、やれる工夫を考えて過ごしていきましょう。



## 生徒会活動報告



2022年度前期生徒会は、「ピース=Peace/Piece」という方針のもと、学園祭の運営や日常の常任委員会活動、安城七夕まつりへの参加、インターハイ応援をはじめ部活動のサポート、またウクライナについての学習会など、さまざまなことに取り組んできました。

学校内のことはもちろん、全校生徒が地域や社会にも目を向けていけるような取り組みを進めることができました。これからも、生徒会活動を通して、ひとりひとりが主体者として学校づくりに関わっていける取り組みを広げていきたいと考えています。

### ◎前期生徒会メンバー紹介

- 【会長】伊藤 萌夏(蒲郡)
- 【副会長】兼松 朱音(安城西)
- 【書記】近藤 有純(幸田北部) 犬塚 太智(一色)
- 【会計】加藤 由紀恵(安城西) 渡邊 陽斗(東山)
- 【渉外】石飛 大悟(新川) 渡辺 心美(新川)

## 国際交流

### オンライン留学 2年目

仲間と一緒に最後まで頑張れる。本気の40時間。



1年1組 小玉 莉都己(大府)

英語を話せるようになりたい一心で参加しました。僕は一週間に100人の先生とお話することを目標に頑張りました。朝から夜まで英会話ばかりやっていたので、本当に疲れますが、その分、英語力だけではなく多くのことを学ぶことができました。自分のペースで、自分の学びたい内容を学習しただけ学習することができるので、誰でもやりきれんと思うし、本当におすすめのプログラムだと思います。iPadを使ったオンライン学習が中心となりますが、初日と最終日は参加したみんなとの集団レッスンもあって、疑似留学が楽しめました。来年も参加して、今年以上に頑張ります。

### 3年ぶりの海外留学実現

カナダへホームステイ留学

国際交流主任 国分 涉悟

コロナ禍ということもあり、最後まで気を抜くことはできませんが、引率教員2名、生徒16名でカナダ(バンクーバー)へ行くことが決まりました。本校ではオンライン学習が定着してきたため、生徒が所有するiPad(あるいは携帯電話)で英語の4技能が養成できるようになっています。とはいえ、実際に海外へ行くことでしか学ぶことのできないものがあります。今回はクリスマスやニューイヤーを海外の家族と過ごす中で、今後の人生の糧にしてもらいたいと願っています。



### 安城学園高校の英語教育

英検やTOEICなどの外部試験での実績と自信

英語科主任 国分 涉悟

安城学園に現在、在籍している生徒たちの中には1年次から英検準1級や1級に挑戦し合格していく子もいれば、英検を受けたことがない子もたくさんいます。まったく英語の学習歴(英語力)が違うにもかかわらず、それぞれが伸び伸びと学習していくことができるのは、本校が生徒一人ひとりにあった学習の場を提供することができるようになってきているからだだと思います。さらに、英検1級やTOEICで955点に届く生徒がいる学習環境の中で、生徒同士が教え合い、助け合っている教室の授業風景から、生徒たちの英語力が伸びていくのは自明の理のように感じる日々です。



### オンライン英会話3年目

iPadを使ったマンツーマンの英会話レッスン

2年5組 岡田 紗弥(碧南中央)

去年の10月から授業や自宅を利用してきて、以前よりも英語を話せるようになってきたと実感しています。オンライン英会話を始める前より、今の方が発音にも気を遣うようになりました。もともと、ある程度リスニングはできたのですが、音読が苦手でした。それが自分からスラスラ出来るようになってきているのを感じます。自分のペースで、学校の授業だけでなく家などの好きな場所、好きな時間帯に英語を学べるのも嬉しいです。これからもコツコツと英会話レッスンを受けて、自分の英語力を高めて、海外留学に挑戦してみたいと思っています。



## フレッシュマンキャンプ

### FC2022を終えて

1年学年主任 和田 圭吾

昨年に引き続いてコロナ禍の中でのFC(フレッシュマンキャンプ)となりました。本来1泊2日で高校生活の目標やクラスメイト・先輩との仲を深めるFCを1日に凝縮しましたが、アシスタントの先輩方、教員、新入生の皆さんが「この1日を充実したものにして」と心一つにしたことでとても良い行事となりました。1時間目のガイダンスは緊張していた新入生も2時間目のレクリエーションから笑顔も出始め、3時間目の先輩の話を聞いて高校生活に希望を持ち、4時間目以降はリラックスしながらも真面目に高校生活について話し合う姿が見られました。この濃縮された1日の体験は1年生全員が高校生活に向けて充実した3年間に出来るように決意を新たにすることができたと思っています。今後の1年生の活躍に今期待ください。



# 「総合的な探究の時間」商業科BIGプロジェクト インターンシップ体験報告



商業科教諭 酒井 美津子

商業科1年生79名を対象に、「総合的な探究の時間」で社会のしくみや働くことへの理解を深め、夏休み期間(7月下旬～8月上旬、8月下旬)を利用して27事業所でインターンシップ職場体験(各2～3日間)を行いました。体験の中で生徒は「自分たちで考えることによって仕事を終えたときの達成感や満足感を知ることができた」「『自分から』を目標に頑張ることで、いつもできないようなことを進んでやることができた」など、働くこと・人と関わること・相手のことを思いやること・チームで協力して一つのことをやり遂げることなど、多くのことを学びました。コロナ禍における他者との接触が難しい状況の中、受け入れをくださった事業所の方々に感謝致します。2学期以降は各自の体験をまとめた発表をしたり、自分や社会の未来を考える時間となります。自己理解・他者理解・社会に関心を持つことや、活動を通して新しい視点を獲得したりすることで、当事者意識をもち課題解決能力の足掛かりとなるように取り組んでいます。



## 【生徒の感想】

商業科1年1組 永見 優 (幡豆)

私は、インターンシップを通してたくさんのことを学びました。自分は接客業を選びました。選んだ理由は、自分は接客をするのが向いてないかもしれないと思いましたが、接客を経験してみたいという興味があったので選びました。3日間体験をして最初は不安でいっぱいでしたが、スタッフの方々が優しく丁寧に教えてくださったので、話しかけてくださったおかげで不安は消え、少しずつ成長することができました。体験以外にも代表の方の言葉を聞いてたくさん学びました。中でも、将来の夢を決めるにあたってどのようなことが大切かということに質問しました。返ってきた言葉は「興味や誘いからやってみること、経験大事。」という言葉です。このことはまさに今回のインターンシップだと思います。最初は興味や経験したいという気持ちで選びました。そして、経験ができて良かったと思ったしとても楽しかったので将来の夢の選択肢が増えました。これから将来の夢を決めていく時に今回のインターンシップのことや代表の方の言葉を参考に決めていきたいと思った3日間でした。



商業科1年2組 庄司 真優 (竜海)

人と関わる仕事に就きたいと考えていた私はインターンシップでcocoroneさんへ行きました。最初は子供達との関わり方が分からず、子供達を見つめるだけになってしまいましたが、施設の方に接し方を教えて頂いたおかげで関われるようになりました。また、体験していくうちに施設の方の工夫や優しさに気づきました。特に、親御さんが忙しく構ってあげられない時に子供が寂しくならないように、大変な時に抱っこをせがまれた親御さんが困らないよう、施設では子供達を抱っこしないということに相手の状況を考え、それに合わせた接し方をされている施設の方の優しさを感じました。また、日常生活の中で人と関わる時に、自己満足になっていないか、自分に合わせてもらっただけになっていないか考えながら関わるようになり、インターンシップを通して進路や将来について考えが深まっただけでなく、自分自身を深めるきっかけにもなりました。

## 教科セミナー報告

### 国語 セミナー

8月5日・6日に広島セミナーを実施しました。1日目は宮島観光2日目は平和記念式典に参加し平和資料館などを見学しました



3年7組 加藤 桃乎 (西尾)

私は原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に初めて参加しました。テレビでは見たことがあったものの実際、会場に来てみると空気から違ったように感じました。言葉にするのは難しいですが会場は異様な空気に包まれているように感じました。

式の中では多くの人の話を聞きました。特に印象に残ったのは「平和への誓い」での(過去に起こったことは変えられないが未来は創ることができる)です。平和な未来を創るために被爆者の声を聞き、思いを想像して、たくさんの人に伝える。そして、自分も周りの人も大切に、互いを助け合うこと。何も難しいことではありません。式での経験や会場の雰囲気、被爆者の方から聞いた話、授業で聞いた話などをこれからたくさんの人に発信していきたいと思えます。

今回の広島セミナーではたくさんの楽しい思い出と貴重な経験をすることが出来ました。高校生でこんな経験をする機会をくださった先生方、参加させてくれた両親に感謝しかありません。このセミナーに参加して良かったです!最後に国連事務総長の話を英語で聞いて良かったです。ゆっくり話してくださっていたので単語が聞き取りやすかったのがすごく嬉しかったです。

3年7組 米田 景琳 (安城北)

広島原爆の日に関係する平和記念式典に参加する為に日本全国、世界から沢山の人がやってくる理由が分かりました。会場は物々しい雰囲気であり感じた事のないものでした。とにかく沢山の人がいました。周りを見回してみると喪服姿で遺影を持った人、外国人、車椅子の人がいて、声高に自分の思想を主張する人もいます。すごく不思議な空間だなと思いました。

12年ぶりに国連事務総長が出席する平和記念式典に出席できて生でグテーレス事務総長のスピーチを聞く事ができて良かったです。被爆者視点も大切にしている所に感動しました。特に子ども代表の平和への誓いが心に残りました。77年前の今日、被爆した市民達が水を求めて川に飛び込んだり、一瞬で骨だけになったりした人もいて、一面焼け野原になった事を考えると周りの景色が違ってくるように見えました。8時15分に平和の鐘が鳴って、蝉の鳴き声が一層大きく聞こえた瞬間を忘れてはいけません。ずっと覚えていたいです。今年の式典には過去最多の101カ国の駐日大使らが参列したそうです。核武装に前のめりな人々はこの日に何を思うのでしょうか。この世の中に核兵器が13000発もある事を初めて知って衝撃を受けました。悪化する世界情勢の中で迎えた原爆の日で、あらためて平和の大切さや尊厳を実感する事ができました。平和に想いを馳せる日にしたいと思います。毎日勉強、遊び、家族や友達と笑い合う事ができていることに感謝したいと思います。そして、核兵器の使用が脅かされる中で私たちに出来る事は何かだろうと考え続けたいです。

### 理科 セミナー

新緑が輝く5月に長野県に行き自然と現代社会をつくる科学技術を五感で味わう体験学習を実施しました



3年4組 清水 くるみ (依佐美)

心に残るきれいな景色が見られてよかったし、日常ではなかなかできない経験がたくさんできました。

佐久間ダムで初めてダムを間近で見ましたが、ものすごい水の量が驚きました。飯田線に乗って、たくさんのきれいな景色を見て、普段は電車の中からこんなきれいな景色が見られないので、あまりの美しさに驚きました。どこを見てもきれいな川ばかりで、身近な川はあまりきれいではないから、私たちの生活は環境を汚染してしまっているんだと思いました。ご飯も自分たちで準備するので少し不安なところもありましたが、協力し合いながらできたので、良かったです。星は写真には映らなかったけど、いつもよりたくさんの星が見えて感動しました。とても良い経験と思い出になりました。

理科教諭 山田 智貴

2年C2組 鈴木 あゆみ (安城南)

今年は、3年ぶりに理科セミナーを実施することができました。

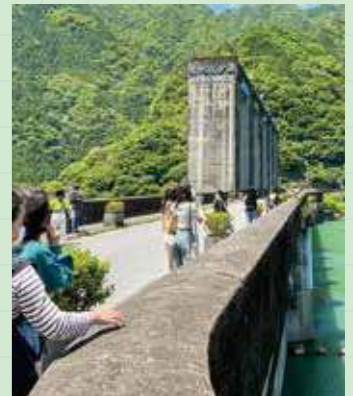
佐久間ダムの壮大な風景を眺めながら日本の水力発電の魅力や、地理を専門とする地歴公民科の先生とタイアップし、飯田線からの地形観察で地質について学習しました。みはらしファームでは、農場体験を通して食品と人間生活との関わりについて学びました。

一泊二日で、幅広い体験をしてきました。自然の中では発見や感動がたくさんあり、体験の大切さを実感しました。

昨年行くことができなかった理科セミナーでしたが、今年は無事に行くことができて良かったです。普段の生活から解放され、なかなか触れ合うことのできない自然に触れることで、リラックスできて心が浄化された感じがしました。

佐久間ダムのある場所は日本列島のちょうど真ん中で、一つの電線は東京まで繋がっていて、もう一つの電線は大阪まで繋がっていることを知って、日本そのものが一つに繋がっていることを実感しました。他にも、飯田線を使った移動での景色や天竜峡からの眺めは、かなり目に焼き付いています。二日目の体験では、3種類のいちごの特徴を意識しながら食べることで、食べ比べができて楽しかったです。

何より仲間と一緒に来ることができ、仲間も深まりました。新しい仲間もできて、自分にとって充実した二日間でした。本当に最高でした。



# 未来対話 Future Session フューチャーセッション

## 5 大人と協働する

3年6組 岡部 敏正(刈谷南)  
3年6組 杉山 祥太(矢作北)  
3年6組 増田 祥太(篠目)

私たちの班は、誰もが過ごしやすい社会を創るための企画を考えました。学外発表会後、岡崎市議の方に声を掛けていただき、実際に「安城市こころのバリアフリー啓発動画」に応募しました。結果は落選しましたが、自分たちの考えた企画が現実味を帯びてきたと感じ、とても嬉しく思いました。また、この企画は完成途中なのでこれからも引き続き考えていきたいと思います。私は福祉系の大学を目指しています。進学後はフューチャーセッションで得た活動を活かし、さらに深い学びをし、活動していきたいと思います。



**GOAL!!!**  
自分たちが未来を創る

**START!**  
自分たちが未来を考える

**1 未来を描く**

## 4 フィールドワークに行く

3年5組 児玉 実咲(西端)  
3年5組 榊原 里彩(吉良)  
3年5組 笹田 有良(刈谷南)

私たちは「都市と山村をつなぐプロジェクト」を考案しました。矢作川水系にある安城市はその豊かな水に支えられています。水源である根羽村へフィールドワークに訪れ、日本が抱えている深刻な森林問題を学びました。解決策として婚姻届を根羽村産の木材を使用したり、届出後に根羽村で植樹をしたりすることを市役所の方々に提案しました。今後は、2つの活動を考えています。1つ目は、プロジェクトの拡大です。2つ目は、根羽村をはじめとした山村の現状とそこで活動する方々をSNSで発信していくことです。さらに、大学では「人間と自然が共生していきたいと思います」と実現するために、学びたいと考えています。



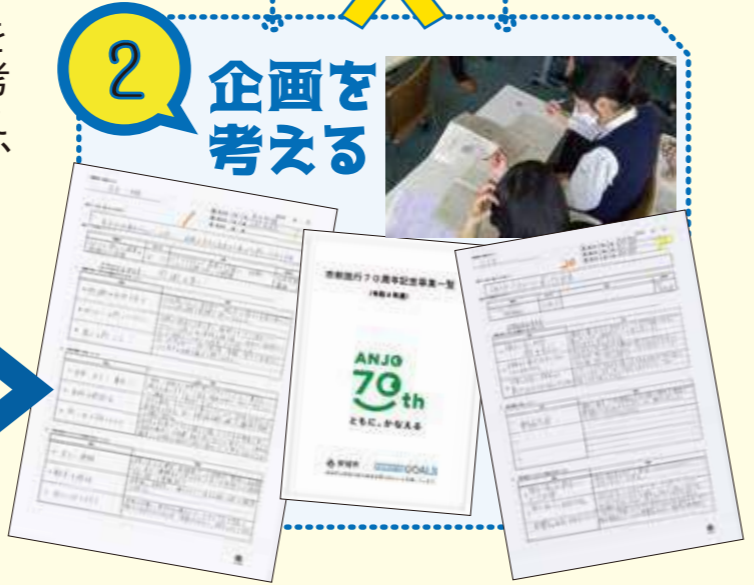
## 3 発表する



## 2 企画を考える



ワクワクしながら新しい何かを考え、共感・信頼・納得・決断してもらうため



# 部活動 Report 2022年4月~2022年11月

## 陸上競技部

### 掴んだ自信を胸にさらに飛躍を

3年8組 鳥居 大阜 (六ツ美)  
僕は初めての全国大会がこの徳島インターハイでのリレーでした。準決勝で敗退となってしまいましたがセカンドベストのタイムで走り、チームの仲間と最高の思い出ができました。そして、夏休み最後に行われた私学祭400mで最優秀選手賞をいただき、10月にはシニアのトップアスリートが参加する大会にも個人で参加することができました。僕は大学進学後も競技を続けようと思っています。これまでの経験を活かして大学でも全国大会の舞台に立てるようにがんばります。



### インターハイ決勝の舞台で得た貴重な経験



3年4組 村松 優 (平坂)  
インターハイ女子走高跳で2年連続で出場することができました。初出場した2年生は不安と緊張であつという間の予選敗退でしたが、3年生の今年は落ち着いて試合に臨むことができ、決勝の舞台も経験することができました。決勝は暑さと緊張で最初は自分が思った跳躍をすることができず、目標としていた1m70の自己ベストを跳ぶことができませんでしたが、粘り強く自己タイ記録を跳ぶことができたことが自信になりました。インターハイという大舞台ですばらしい経験になりました。応援ありがとうございました。

### 入学時から目標だった夢舞台

3年5組 万前 瑞葵 (知立)  
高校入学時から思い描いていたインターハイの舞台で仲間たちと共に走ることができ、とても嬉しかったです。予選のレースでは、緊張もあり上手く飛び出すことが出来ませんでした。準決勝では、過去最高の走りをして次走者にバトンを渡すことができました。残念ながら、決勝へと進むことができませんでしたが、ここまで仲間と切磋琢磨しながら自分の限界に挑戦できて良かったです。安城学園陸上競技で学んだことを次のステージでも活かしていきたいと思います。



## 吹奏楽部

### 東海吹奏楽コンクールで金賞

3年7組  
後藤 にか (犬山南)

8月28日に第77回東海吹奏楽コンクールがアクティビティ松にて行われ、金賞を受賞しました。新型コロナウイルス感染症の影響で大切な時期に1週間以上も練習が出来ない状況に見舞われましたが、東海大会の舞台では自分たちの最高の音楽を演奏することができました。目指していた全国大会出場には一歩及ばず、次点4位という結果でしたが、後日演奏を聴いて頂いた方から、「心から感動した」というメールを頂き、私たちの音楽が聴衆の皆さんにも届いたのだと実感し、心から嬉しく思いました。これからも、私たち吹奏楽部はお聴きいただくお客様に、私たちの心をお届けできる様、精一杯頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。



### 東海マーチングコンテストで金賞・朝日新聞社賞

3年6組  
平田 祥 (碧南)

10月15日(土)に長野市ビックハットにて行われた第36回東海マーチングコンテスト・パレードコンテスト部門において、金賞・朝日新聞社賞(1位)を受賞し、11月20日(日)に大阪城ホールで行われる第35回全日本マーチングコンテストに推薦していただきました。今年度は座奏とマーチングを並行して練習し、実際に動きながら演奏できる練習も少ない中、全員で協力して納得のいくショーを創り上げることが出来ました。スタイルを大幅に変更し、衣装も刷新して初めての本番でしたが、今までにない新しい安城学園のパフォーマンスを披露することが出来ました。全国大会に向けて、更に精度を上げ、僕たちの思いも乗せてより多くの方々へ届けられるよう、日々精進していきたいと思っております。引き続き、吹奏楽部に応援よろしくお願いします。



### 日本クラシック音楽コンクール全国大会へ

2年11組  
酒井 靖河 (桜井)

8月31日に安城市民会館で行われた予選を勝ち抜き、10月8日に中村文化小劇場で行われたトロンボーン部門の本選に臨みました。結果は昨年に続き2年連続で「日本クラシック音楽コンクール・全国大会」へ進むことが出来ました。予選、本選ともに自分の納得する演奏ができず悔しい思いをしたので、全国大会に向けて最後まで妥協せずに練習を重ね、納得できる演奏を披露し「全国優勝」を狙いたいと思っております。応援よろしくお願いします。



## 弦楽部

### 全国大会出場決定!

3年2組  
田中 彩絵 (城北)

8月10日に日本学校合奏コンクールの全国大会出場をかけた録音が行われ、11月5日に福島県でグランドコンテスト、11月19日に千葉県でソロ&アンサンブルコンテストの全国大会出場が決まりました。コロナ禍で思うように練習することが出来ない時もありましたが、全員で演奏できる時間を大切にしてきました。また、一人一人が今まで積み重ねてきたことや、講師の先生方に教わったことを意識した結果が昨年同様の全国大会出場という形で実を結ぶことができました。全国大会では、部員全員で上を目指すのはもちろん、今まで指導して下さった講師の先生方、支えて下さった方々への感謝を忘れず、聴いている人の心に残る演奏ができるよう部員一同頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。



## ダンス部

### 全国ハイス쿨ダンスコンペティション 第3位受賞

3年6組  
岡村 菜優 (西端)

この夏、全国大会出場を目標に、去年の先輩たちを超えられるよう、毎日努力を重ねました。今年は、感染症対策による部活動停止や大会直前の怪我によるメンバー交代など様々な壁にぶつかりました。その度に、みんなで今何が出来るかを考え、全国への夢を1度も諦めませんでした。部活が出来なければ家で動画を送り合い、怪我人が出ればみんなでその子を支え、補いました。誰かのために動いてくれる仲間、何度も助けられました。どんなに上手いかわからなくても諦めずに自分たちのダンスと向き合い続けた結果、最後の大会"NFCC 全国ハイス쿨ダンスコンペティション"で第3位を受賞することができました。最後に今までの努力を形として残すことが出来て、本当に良かったです。全国大会へ出場できなかったことはとても悔しいですが、この思いは来年後輩が引き継いでいってくれると思います。常に私たちを信じ、応援し続けてくれたみなさん、本当にありがとうございました。今度もダンス部の応援よろしくお願いします。



## 女子バスケットボール部

### 日本一を目指して



3年7組  
荻野 友来 (甲山)

新チームになってからの出だしが悪く、昨年であれば勝っていたところで負けが続いてしまい、自分たち自身の力不足を早々に知りました。その時の悔しさをバネに、過去の先輩方に恥じないように、新監督を中心に、自分たちの足りない力を強化するために、今まで以上にハードな練習メニューを取り入れたり、コミュニケーションを増やしたりと、日本一の目標を達成するために日々努力してきました。その積み重ねが、日清食品トップリーグで成果を出し、全国レベルのチームと対等に戦い、また勝つこともできました。今も、この結果を踏まえてチーム一丸となって日本一に向かって頑張っています。Winter Cupでは日頃チームのことを一番に考えて指導して下さる監督、先生方、コーチ、また離れていても一番に応援してくれている保護者の方々に恩返しができるよう、日本一を目指してこれからも練習に励んでいきます。

## 野球部

### 春以降に力を証明したい



野球部顧問 増永 和夫

昨年は県大会ベスト16、全三河3位に入り迎えた夏の大会も悔しい思いはしたものの中部大春日丘と好ゲームを繰り広げた。新チームに入り順調に進むかに思えたチームが壁にぶつかった。今秋は悔しい思いをした。その悔しさを春以降にぶつきたい。このチームはこんなもんじゃないと証明してもらいたい。そのため選手は前を向き日々のトレーニングに精進し、チーム一丸となって戦います。

## 男子バスケットボール部

### 昨年以上の成績を目指し『挑戦』

3年7組  
長坂 みづほ (安城西)

私たちは昨年、先輩たちにインターハイに連れて行ってもらい、とても良い経験をしました。自分の学年でもインターハイに出場し、昨年よりも良い結果を残したいという思いで予選に挑みましたが、愛知県3位という結果で終わってしまいました。自分達には何が足りないのか、チームプレーだけではなく個々の課題にそれぞれが向かい合いました。夏の悔しい気持ちをぶつけて、ウィンターカップに出場し、1試合でも多くバスケットボールが出来るよう、日頃ご指導して下さる先生やコーチ、また応援や支えてくれる家族の感謝の気持ちを忘れず、最後まで頑張っていきたいです。



## ハンドボール部

### 西三河大会優勝を目標に

2年3組 馬場 汐由那 (幸田南部)  
私たちがハンドボール部は、西三河大会優勝、県大会連続出場、碧海大会連覇を目標に日々の練習に励んでいます。私たちの強みは、学年関係なく仲がよく、コートの中でも外でも、何でも話し合える関係です。一緒にいてくれる仲間のお陰で楽しくハンドボールをすることができ、毎日応援してくれるクラスメイトがいるから元気にグラウンドに練習に行けます。クラスでも担任の先生や教科担当の先生が「頑張ってるね」「頑張っているね」と声をかけてくれます。これからも社会に出て活躍できる大人になるためにハンドボール以外の学習面・クラス活動も全力で挑戦し全力で楽しんでいきたいと思っています。



## アーチェリー部

### 小さなことからコツコツと



2年11組 山中 葉月 (朝日)  
私たちがアーチェリー部は東海大会出場を目指し、日々練習に励んでいます。今年最後の高体連の大会である秋季アーチェリー大会が10月8日に行われ、団体で3位に入賞し、4名が県大会に出場することが決まりました。大会の中でも中々点数が伸びない子に対してアドバイスをしたり、切磋琢磨しながら全員が72射撃することができました。大会で出た反省点を普段の練習で修正して、次の大会に生かしていきたいと思えます。県大会ではチーム全員で一致団結して良い成績を残せるように頑張ります。これからも応援よろしくお願いします。

## 女子サッカー部

### 高校女子サッカー選手権4強ならず。新チーム始動。

2年10組 岡本 伊予 (幡豆)  
3回戦からの出番となった高校女子サッカー選手権において、初戦を順当に勝ち上がり、予選トーナメント決勝を同朋と戦いました。4強シードの相手校に対し一歩も引かず前半はスコアレス。後半に入り互角以上の時間帯が増えましたが終了間際に失点。0-1の惜敗となり、17期生の先輩方はここで引退となりました。そして10月初めから新チームでの活動が始まりました。新チームになっても私たちの目標は県ベスト4、そして東海大会出場です。この目標を達成するには、部員全員が個人の課題やチームの課題を常に意識し、毎日の練習を行うことが必要になってきます。私たちは集中が切れてしまったり、すぐ流されてしまう弱さがあります。その弱さを克服することが、去年よりも良い結果を残すために必要なことだと考え、毎日練習に励んでいます。上下関係に囚われない私たちがからこそ、お互いに気付いたこと、思ったことをしっかり伝え合えるチーム作りをしていきたいです。全員で東海大会のピッチに立つために、部員全員一丸となって頑張っていきます。



### 愛知県高等学校女子サッカー大会 第3位

3年10組 鈴木 菜奈 (新川)  
再び県ベスト4に入ることを目標にし、日々の練習に取り組んできました。毎日の練習や試合後の話し合い、映像から課題を見つけ一人一人が工夫を加えながら練習に取り組んできました。初戦となった2回戦は悪天候の影響もあり全てを出し切ることはできませんでしたが8-0で勝利。3回戦は勝てばベスト4という大一番で至学館と戦いました。押され気味の試合でしたがチーム全員で声を出し合い、最後まで気持ちを切らさず全力プレーを続けることで0-0のままPK戦へ。GKの好セーブや冷静なシュートで6-5と勝つことができベスト4に入ることができました。準決勝は聖ピタニオと戦い自分たちのプレースタイルを崩すことなく試合に臨みましたが0-3で敗戦。この悔しさから改めて磨きをかけて豊川との3位決定戦に挑みました。大事な一戦を2-0で勝利を収め第3位という結果を出し、今シーズンの目標であった4強入りを果たすことができました。



## 放送部

### 戦争体験を語り継いで



2年3組 宇野 友紀奈 (崇化館)  
7月30日に開催された第21回やろまいか・みんなの平和祭にて戦争体験の語り継ぎを行いました。第二次世界大戦中、二度も空襲の被害に遭った伊藤さんに当時の様子を詳しくお話していただき、それを元に台本を作成しました。戦争を間近で経験していない私たちが当時の様子や伊藤さんの思いを言葉にすることはとても難しく、戦争を経験された方々と私では平和という言葉の本質がまるで違うのではないかと気付くことができました。戦争があったという事実は決して消えることはありませんが、それを語り継ぐことはできます。これからも誰かのため、平和のために声を届けたいです。

## インターアクトボランティア部

### 心に残った盲導犬募金ボランティア

2年13組 上村 啓悟 (朝日)  
僕がこの部活に入った理由は、多くの人と関わりたいからです。今まで、下記のような様々な活動をしてきましたが、一番心に残っているのは、安城市デンパークで行った「盲導犬募金ボランティア」です。この活動の目的は盲導犬について知ってもらい、盲導犬の育成のための寄付金を集めるというものでした。初めは大勢の前で声を出して呼びかけることに抵抗がありましたが、次第に呼び掛けに応じてくれる人が増えたことがとても嬉しかったです。これからも地域の活動に貢献できるように頑張ります。



## 箏曲部

### 私学連合音楽会に参加

2年4組 治 花音 (前林)  
箏曲部は8月に、私学連合音楽会(邦楽の部)に参加し、新しく入部した一年生と共に多くの観客の皆様の前で演奏をさせていただきました。初めての大きな舞台で、学ぶことがとても多く、良い機会になりました。学園祭や学校見学会でも演奏させていただき、個人の技量を上げ全員で息の合った演奏をするためには練習が大切であることを痛感しました。コロナの影響で演奏発表する機会が減ってしまいましたが、現在は、2月4日(土)の定期演奏会に向けて日々練習に励んでいます。聴いてくださる皆様に元気や癒やし、笑顔を届けられる演奏会にしたいと思っています。



## 学び探究部

### 英語・数学・探究



学び探究部顧問 北林 晃  
生徒の興味に合わせて、教科学習はもちろん、地域に向いて課題解決に向けて取り組んだり、調査研究を行ったりしています。先日は安城駅で行われたイベントでブースを出したり、安城歴史博物館と共同でプロジェクトを進めたり、寺社のことを調査するために京都に出かけたりしました。また、SFILというグループがマイプロジェクトアワード2021という大会で中部サミット地域特別賞をいただきました。

## 合唱部

### 第62回愛知県合唱コンクール 金賞 県代表 第75回中部合唱コンクール 銀賞

3年2組 森岡 未凧 (碧南中央)  
私たちは愛知県コンクールにて金賞を受賞し、県代表として中部大会に出場することが出来ました。練習は上手いかないこともありましたが、仲間と共に音楽を楽しむことを忘れず、聴いてくださる方々へ想いを届けることを目標に頑張りました。コンクール本番では、少し悔しさの残る合唱となりましたが、部員全員と笑顔でステージに立てたことが何よりの思い出になりました。これからも日頃応援してくださる方への感謝の気持ちを忘れず、部員の個性や魅力を生かした合唱作りをしていきます。応援よろしくお願いします。

